

2022年度第2回日本東洋医学会関東甲信越支部栃木・茨城合同県部会によせて

日本東洋医学会関東甲信越支部茨城県部会・会長
平山 曉(筑波技術大学保健科学部附属東西医学統合医療センター・教授)

本日は第2回日本東洋医学会関東甲信越支部栃木・茨城合同県部会にご参加頂き誠にありがとうございます。COVID-19の猛威は依然として続いており、ご参加の皆様も医療者としてご多忙の毎日が続いていることと拝察致します。皆様の献身に深い敬意を表します。

本年度の日本東洋医学会関東甲信越支部栃木・茨城両県の県部会も昨年度と同様、2県の合同県部会としてweb上で開催する運びとなりました。合同開催の提案を御快諾頂き、開催の段をお取り計らい頂きました栃木県部会金子達先生、濱口眞輔先生をはじめ、皆様に深く感謝申し上げます。

COVID-19の拡大以降、医療はもちろん、社会全体も大きく変わり、言い様のない不安に覆われています。人類の叡智の結集によりSARS-COV-2ワクチンは極めて迅速に開発され、重症化の予防により何億もの命を救いました。しかし、軽症から中等症の治療や、long-COVIDと云われる特有の後遺症の治療に関する創薬は、残念ながら歩みが遅い現状です。特にlong-COVIDは症状が実に多彩であり、患者個々の症状を綿密に評価する必要に迫られます。

御承知の如く、六病位に基づく漢方治療理論は多くの感染症パンデミックを経て現在に至るものでありますが、COVID-19の中で改めてその有用性を認識された方も少なくないでしょう。また、柴葛解肌湯や大青龍湯といった、保険収載されていない漢方製剤も改めて脚光を浴びています。重要なことは、COVID-19拡大の中で、日本ではこのような患者に対し、漢方治療という選択肢が存在し、それにより多くの国民に福音をもたらすことが可能な状態にあった、と云うことです。私たち漢方に携わる医療者はこのことを強く認識する必要があると考えます。

本会の開催にあたり、漢方が今後とも国民の福祉に貢献を続けることを願ってやみません。

2022年10月
日本東洋医学会関東甲信越支部・茨城県部会
部会長 平山 曉